

縫田清二教授略歴・主要業績

略 歴

- 一九二二年一月二〇日 イギリス領インド、ボンベイ市ワードンロード、日本帝国領事館舎で出生（父の職務のため）
- 一九二三年二月 日本へ帰国
- 一九二七年五月 フィリピン、マニラ市サン・マルセリーノ、日本帝国総領事官舎に赴く（父の職務のため）
- 一九三〇年一〇月 日本へ帰国
- 一九三一年四月 暁星小学校に入学
- 一九三六年三月 暁星小学校を卒業
- 一九三六年四月 暁星中学校に入学
- 一九四〇年三月 暁星中学校を卒業
- 一九四〇年四月 東京外国語学校フランス語部貿易科に入学
- 一九四三年九月 東京外国語学校を半年間繰り上げ卒業（戦時中の特例のため）
- 一九四三年一〇月 いわゆる、第一次学徒出陣、すなわち、海軍第三期兵科予備学生として、「旅順方面・特

別根拠地隊・予備学生教育部（旅順）に入隊

海軍通信学校（横須賀・久里浜）に入校、特信班に編入

海軍少尉に任官、即日召集

海軍通信学校を卒業。即日、海軍軍令部・特務班に勤務（はじめイギリス、のちにアメリカの情報活動に従事）

海軍中尉に進級

第五航空艦隊司令部（鹿児島県鹿屋）に勤務

敗戦により復員

東京商科大学本科に入学

東京商科大学本科を卒業（学士試験合格）

東京商科大学研究科特別研究生（前期課程）に入学

経済学史学会会員（現在に至る）

東京商科大学研究科特別研究生（前期課程）を卒業

東京商科大学研究科特別研究生（後期課程）に入学

東京商科大学研究科特別研究生（後期課程）を中退

横浜国立大学経済学部助手となる

横浜国立大学経済学部講師となる（社会思想史を担当）

- 一九四四年 一月
- 一九四四年 五月
- 一九四四年 七月
- 一九四五年 二月
- 一九四五年 五月
- 一九四五年 八月
- 一九四六年 五月
- 一九四九年 三月
- 一九四九年 四月
- 一九四九年 四月
- 一九五一年 三月
- 一九五一年 四月
- 一九五二年 三月
- 一九五二年 三月
- 一九五三年 四月

一九五三年 四月

日本フランス文学会会員（現在に至る）

一九五五年 四月

内地研究員として東京大学文学部フランス文学科に九ヵ月間留学（フランス・ユートピア思想研究のため渡辺一夫教授に師事）

一九五六年 一月

カンボジアへ出張（ベトナム、カンボジア両国を中心とする現地の実情調査ならびに同国における用語字整理の研究に協力）

一九五六年 七月

カンボジア政府より文化功労賞を授与される

一九五六年 七月

帰国

一九五八年 四月

横浜国立大学経済学部助教授となる

一九六〇年 二月

イスラエル国費留学試験に合格

一九六〇年 一〇月

イスラエル国費留学生としてエルサレム・ヘブライ大学に留学（ユートピア思想の源泉としてのユダヤ思想の研究、ならびに、ユートピア共同体「キブツ」の実態調査。同時にマルチン・ブーバー教授に師事）

一九六二年 六月

イスラエルを出国

一九六二年 六月

フランス・パリ、ソルボンヌ大学附属高等学術研究院（第六部門）の招きにより、同研究院においてアンリ・デローシュ教授と「ユートピア共同体」についての共同研究に参加

一九六二年 二月

帰国

一九六三年 四月

日本オリエント学会会員（現在に至る）

一九六五年 四月
横浜国立大学経済学部第二部講師を併任する（一九七〇年以降は経営学部第二部となり、併任は一九七五年三月三十一日まで）

一九六八年 一月
アメリカ・イリノイ大学客員研究者として招かれ、同大学におけるユートピア共同体についての共同研究に参加する

帰国

一九六八年 一〇月
横浜国立大学経済学部教授となる

一九七〇年 七月
横浜国立大学経済学研究科で社会思想史を担当

一九七四年 四月
横浜国立大学経済学部長を併任する（一九七八年一二月まで）

一九七五年 四月
社会思想史学会会員（現在に至る）

一九七七年 四月
横浜国立大学経済学部附属貿易文献資料センター長を併任する（一九八二年三月まで）

一九七九年 四月
文部省在外研究員として、イスラエル、フランス、アメリカへ出張、世界におけるユ-

一九七九年 八月
トピア思想の比較研究に従事

一九七九年 一〇月
帰国

一九八七年 三月
横浜国立大学経済学部を定年により退職

一九八七年 四月
成城大学法学部教授となる

一九九二年 三月
成城大学法学部を定年により退職

〔付記〕 右の略歴からは、他大学の非常勤講師、各種公開講座の講師、各官庁における各種委員としての兼業等については、すべて省略してあります

主要業績

論文等

- 「啓蒙期の一僧侶——マブリーについて」(「一橋論叢」、一橋大学、一九五一)
- 「J・J・ルソーの著書目録」(「一橋論叢」、一橋大学、一九五三)
- 「テレームの僧院におけるラブレールの社会思想」(「エコノミア」、横浜国立大学経済学部、一九五四)
- 「世界の主要図書館に所蔵されているエティエンヌ・カペーの文献について」(「横浜国立大学経済学部紀要」、一九五五)
- 「一九世紀フランス社会思想の一系譜」(「歴史学研究」、岩波書店、一九五六)
- 「カペーの研究について」(「エコノミア」、横浜国立大学経済学部、一九五八)
- 「トマス・モア」(「法学セミナー」、日本評論新社、一九五八)
- 「女性のための新幸福テキスト」(「主婦と生活」、主婦と生活社、一九五九・一)
- 座談会「新しい親族の在り方を考える」——親族法の改正案と内縁の妻、特別養子、扶養義務の問題〔大浜英子、林 房夫、山本 杉、縫田清二〕(「主婦と生活」、主婦と生活社、一九五九)
- 「夫からみた働く妻のプラス・マイナス」(「婦人公論」、中央公論社、一九五九)
- 「リベルタンのユートピア思想」(「フランス文学研究」、日本フランス文学会、一九六〇)
- 「快樂苦行」(「る・ふらんせ」、東京外大フランス語科、一九六〇)
- 「キブツでの生活体験(上)」(「朝日ジャーナル」、朝日新聞社、一九六一・一二)

- 「キブツでの生活体験（下）」（『朝日ジャーナル』、朝日新聞社、一九六一・一二）
- 「ユダヤ人の執念」（『朝日ジャーナル』、朝日新聞社、一九六三・三）
- 「人づくりのビジョン——イスラエルの実験」（『現代教育科学』、明治図書、一九六三）
- 「ユダヤ人の差別」（『部落』、部落問題研究所、一九六四）
- （訳・編）「日本のユートピア共同体を見て——D・W・プラス」（『朝日ジャーナル』、朝日新聞社、一九六五・八）
- 「イスラエルのユートピア共同体（一）」（『外務省調査月報』、外務省、一九六五）
- 「イスラエルのユートピア共同体（2）」（『外務省調査月報』、外務省、一九六五）
- 「地域開発とユートピア」（『神奈川自治』、神奈川県、一九六六）
- 「日本のキブツ」（『月刊キブツ』、日本協同体協会、一九六六）
- 「イスラエルの道」（『自由』、自由社、一九六七）
- 「ユダヤ人の歴史的考察」（『時』、旺文社、一九六七）
- 「ゆれる中近東の背景」（現代の教養第一四巻『現代世界の焦点』、筑摩書房、一九六八）
- 「イスラエルに生活して」（『パスポート』、日本交通公社、一九六八）
- 「イスラエルの苦悩と決意」（『自由』、自由社、一九六九）
- 「未来学とユートピア学」（『未来研究』、宣協社、一九六九）
- 「人類悲願年」（『未来研究』、宣協社、一九六九）
- 「ユートピアを語る日米対談」（『未来研究』、宣協社、一九七〇）

- 「ユートピア共同体の一モデル」〔未来研究〕、宣協社、一九七〇〕
- 「東西ユートピア考」〔未来研究〕、宣協社、一九七〇〕
- 「ユートピア文献目録」〔未来研究〕、宣協社、一九七〇〕
- 「ユートピア思想の原点」〔評点〕、大東文化大学、一九七二〕
- 「社会思想史からみたユートピア共同体」〔月刊キブツ〕、日本協同体協会、一九七二〕
- 「ユートピアの歴史(1)」〔未来研究〕、宣協社、一九七二〕
- 「ユートピアの歴史(2)」〔未来研究〕、宣協社、一九七二〕
- “Traditional Utopias in Japan and the West: A Study in Contrasts,” in D. W. Plath, ed., *Aware of Utopia*
(University of Illinois Press, 1971)
- 「ユダヤ思想の原点とその現代的発展」〔理想〕、理想社、一九七二〕
- 「パレスチナとブーバー」〔現代の眼〕、現代評論社、一九七三〕
- 「ユダヤ人はなぜパレスチナに執着するか——その歴史と建国」〔アラブの世界〕、朝日新聞社、一九七四〕
- 「ユートピア思想 学会展望」〔経済学史学会年報〕、経済学史学会、一九七四〕
- 「ユートピア成立の基本的性格——東西の場合を瞥見して」〔社会思想史研究〕、社会思想史学会年報、ミネル
ヴァ書房、一九七八〕
- 「私にとっての宗教 随想」〔現代の眼〕、現代評論社、一九七八〕
- 「生命倫理と法——医療と医学について」——加藤一郎教授の基調講演をめぐるシンポジウム〔エコノミア〕、
横浜国立大学経済学会、一九八四〕

- 「イスラエルのシオニズム」(オリエント史講座第六卷『アラブとイスラエル』、学生社、一九八六)
「私の生き方 合宿の人生」(「女子教育もんだい」、労働教育センター、一九八七)
「コミュニティの生活——もの」から「ひと」へ」(「老人福祉研究」第一二巻、日本老人福祉財団、一九八七)

単行資料

- 「アイヒマン裁判」(「外務省近近資料」第六五号、外務省、一九六二)
「キブツ——イスラエルのユートピアの実験」(「外務省近近資料」第六八号、外務省、一九六三)

対 談 (開高 健、縫田清二)

- 「砂漠の中の奇跡」(開高 健対談集『悠々として急げ』、角川書店、一九七九)

学会発表

- マブリーについて (経済学史学会春季大会、一九五二)
リベルタンのユートピア思想 (日本フランス文学会秋季大会、一九五九)
イスラエルのキブツについて (日本オリエント学会秋季大会、一九六三)

Traditional Utopias in Japan and the West: A Study in Contrasts (Conference on Utopia in Comparative Focus, Sponsored by The Center for International Comparative Studies of the University of Illinois,

ユートピア成立の基本的性格——東西の場合を瞥見して（社会思想史学会春季大会、一九七七）

公開講座等

ユダヤの発想（五回）（朝日カルチャーセンター・横浜、一九八七）

ユダヤ思想に学ぶへ生（成城大学公開講座、一九八七・一一）

異質と創造の西洋思想史（二〇回）（朝日カルチャーセンター・東京、一九八七）

ユダヤの思想にみるへ生きることの意味（湯河原教育委員会主催「町民大学」講演、一九八八・六）

異質文化の交流と思想の創造（二〇回）（婦選会館公開講義、一九八八）

ヨーロッパ思想の流れ（二〇回）（朝日カルチャーセンター・横浜、一九八九）

へ生きることのすべて——ユダヤの発想から（二〇回）（婦選会館講座、一九八九）

ユダヤ人への誤解と偏見——パレスチナ問題をめぐって（湯河原教育委員会主催「町民大学」講演、一九八九・

六）

自由の魅力と恐怖（二〇回）（婦選会館講座、一九八九）

社会思想史入門（二〇回）（婦選会館講座、一九九〇）

国家と自由をめぐって（二〇回）（婦選会館講座、一九九〇）

ユダヤ・イスラエルへの理解（二〇回）（婦選会館講座、一九九二）

ユダヤ思想の原点（二〇回）（婦選会館講座、一九九二）

ユダヤ・イスラエルへの理解——パレスチナ問題の真実（成城大学公開講座、一九九二・一〇）
ユダヤ・イスラエルへの理解（五回）（横浜市教育委員会主催「横浜市婦人教養大学」、一九九二）
ユダヤ・イスラエル・パレスチナ——歴史と現実（一〇回）（婦選会館講座、一九九二）
社会思想史における「近代」の成立とその意味（一〇回）（婦選会館講座、一九九二）

その他（東京商科大学本科二年～三年に在学中発表した時事解説、発表誌はすべて「世界週報」、時事通信社）

- 「金をめぐるカナダの苦悶」（二八巻四一号、一九四七）
- 「増税案とフランスの財政」（二九巻九号、一九四八）
- 「イギリスの国際収支」（二九巻一五号、一九四八）
- 「フランスにおける物価と賃金（上）」（二九巻一七号、一九四八）
- 「フランスにおける物価と賃金（下）」（二九巻一八号、一九四八）
- 「欧州関税同盟の諸問題（一）」（二九巻一九号、一九四八）
- 「欧州関税同盟の諸問題（二）」（二九巻二〇号、一九四八）
- 「欧州関税同盟の諸問題（三）」（二九巻二一号、一九四八）
- 「フランス経済の現状（上）」（二九巻二五号、一九四八）
- 「フランス経済の現状（下）」（二九巻二六号、一九四八）
- 「ソ連五ヶ年計画の成果」（二九巻二六号、一九四八）
- 「ユーゴ社会化の現段階」（二九巻二八号、一九四八）

- 「カナダ経済を打診する」(二九卷二八号、一九四八)
- 「行き悩むドイツ賠償問題」(二九卷二九号、一九四八)
- 「ソ連の農村はいかに改善されたか」(二九卷三〇号、一九四八)
- 「東欧における農業問題(上)」(二九卷三三号、一九四八)
- 「東欧における農業問題(下)」(二九卷三四号、一九四八)
- 「バルミロ・トリアッチ〈人物評論〉」(二九卷三四号、一九四八)
- 「ハンガリー経済の現状と労働事情」(二九卷三六号、一九四八)
- 「転換期に立つフランス経済(上)」(二九卷三七号、一九四八)
- 「転換期に立つフランス経済(中)」(二九卷三八号、一九四八)
- 「転換期に立つフランス経済(下)」(二九卷三九号、一九四八)

1. 1914
 2. 1915
 3. 1916
 4. 1917
 5. 1918
 6. 1919
 7. 1920
 8. 1921
 9. 1922
 10. 1923
 11. 1924
 12. 1925
 13. 1926
 14. 1927
 15. 1928
 16. 1929
 17. 1930
 18. 1931
 19. 1932
 20. 1933
 21. 1934
 22. 1935
 23. 1936
 24. 1937
 25. 1938
 26. 1939
 27. 1940
 28. 1941
 29. 1942
 30. 1943
 31. 1944
 32. 1945
 33. 1946
 34. 1947
 35. 1948
 36. 1949
 37. 1950
 38. 1951
 39. 1952
 40. 1953
 41. 1954
 42. 1955
 43. 1956
 44. 1957
 45. 1958
 46. 1959
 47. 1960
 48. 1961
 49. 1962
 50. 1963
 51. 1964
 52. 1965
 53. 1966
 54. 1967
 55. 1968
 56. 1969
 57. 1970
 58. 1971
 59. 1972
 60. 1973
 61. 1974
 62. 1975
 63. 1976
 64. 1977
 65. 1978
 66. 1979
 67. 1980
 68. 1981
 69. 1982
 70. 1983
 71. 1984
 72. 1985
 73. 1986
 74. 1987
 75. 1988
 76. 1989
 77. 1990
 78. 1991
 79. 1992
 80. 1993
 81. 1994
 82. 1995
 83. 1996
 84. 1997
 85. 1998
 86. 1999
 87. 2000
 88. 2001
 89. 2002
 90. 2003
 91. 2004
 92. 2005
 93. 2006
 94. 2007
 95. 2008
 96. 2009
 97. 2010
 98. 2011
 99. 2012
 100. 2013

1. 2014
 2. 2015
 3. 2016
 4. 2017
 5. 2018
 6. 2019
 7. 2020
 8. 2021
 9. 2022
 10. 2023
 11. 2024
 12. 2025
 13. 2026
 14. 2027
 15. 2028
 16. 2029
 17. 2030
 18. 2031
 19. 2032
 20. 2033
 21. 2034
 22. 2035
 23. 2036
 24. 2037
 25. 2038
 26. 2039
 27. 2040
 28. 2041
 29. 2042
 30. 2043
 31. 2044
 32. 2045
 33. 2046
 34. 2047
 35. 2048
 36. 2049
 37. 2050
 38. 2051
 39. 2052
 40. 2053
 41. 2054
 42. 2055
 43. 2056
 44. 2057
 45. 2058
 46. 2059
 47. 2060
 48. 2061
 49. 2062
 50. 2063
 51. 2064
 52. 2065
 53. 2066
 54. 2067
 55. 2068
 56. 2069
 57. 2070
 58. 2071
 59. 2072
 60. 2073
 61. 2074
 62. 2075
 63. 2076
 64. 2077
 65. 2078
 66. 2079
 67. 2080
 68. 2081
 69. 2082
 70. 2083
 71. 2084
 72. 2085
 73. 2086
 74. 2087
 75. 2088
 76. 2089
 77. 2090
 78. 2091
 79. 2092
 80. 2093
 81. 2094
 82. 2095
 83. 2096
 84. 2097
 85. 2098
 86. 2099
 87. 2100
 88. 2101
 89. 2102
 90. 2103
 91. 2104
 92. 2105
 93. 2106
 94. 2107
 95. 2108
 96. 2109
 97. 2110
 98. 2111
 99. 2112
 100. 2113